

ピレリ・スーパー耐久シリーズ 2018

第4戦 オートポリス



東 徹次郎

TOHJIRO AZUMA

灼熱の九州ラウンドは今季ベストリザルトの4位！！

燃料系トラブル発生も、チーム最多の81周を担当！！

- ・開催サーキット：オートポリス（4.674km）
- ・レース時間：5時間
- ・チーム：T's concept
- ・マシン：T's concept 86 (TOYOTA86)
- ・カーナンバー：＃28
- ・クラス：ST-4
- ・ドライバー：A 東 徹次郎 B DAISUKE

C 植田 正幸 D 森山 鉄也



公式予選（7月14日）

◆Weather：晴れ ◆Course：ドライ

今回は午前中にフリー走行があった為、予選前に New タイヤの確認をすることが出来ました。

全クラス同時走行とはいえ、ここで確認出来たことは予選に向けて自分自身にも余裕が出来ました。

そして正午過ぎ、予選を迎えます。

コースオープンと同時にコースインです。

自分はチームメイトである 29 号車の背後につけていきます。

いつもなら 1 周目はまだタイヤを温めているのですが、今回は暑いせいかすぐにグリップが出てきて、しかもタイムが出るのは 1 アタック目が多かったのも、そのつもりでアウトラップを準備していきます。

そして計測 1 周目。

前にいた 29 号車、そしてその前の 884 号車も全員アタック開始です。

しかし午前の New タイヤの感触とは違いました。

フロントもリアも若干接地感が薄いのです。

狙ったラインから少し外れてしまったり、最後のセクションではトラクション不足だったり完璧とまではいきませんでした。

強い日差しも照り付けていたので、おそらく予想以上に路面温度も高くタイヤの内圧を少し外していた感じがありました。

コーナー毎に少しずつ前に離されていました。

そしてそのまま 2 周目のアタックへ。

この周の方が 1 周目よりもまとめることは出来たのですが、それでもタイヤのパフォーマンスは最初の方が良かったので、タイムを更新することは出来ませんでした。

再度クーリングラップを入れてからアタックしましたが、セクター2までにタイムの更新が出来ていなかったのも、すぐにアタックを止めてピットへ帰りました。

A ドライバー予選をクラス 6 位で終えます。

B ドライバーの DAISUKE 選手は自己ベストタイムを大きく更新しましたが、路面コンディションも良くなったせいなのか、全車が A ドライバー予選のときよりも確実に 1 秒は速くなっていました。

B ドライバー予選をクラス 9 位で終え、合算タイムにより、決勝はクラス 9 位からのスタートとなりました。

C ドライバー予選の植田選手も、しっかりと自己ベストタイムを更新し、決勝に向けて良い手応えを感じているようでした。

しかし D ドライバー予選の森山選手は、いつもならタイムが出てくるのですが、本人も予想出来ないくらいタイムが伸びてきませんでした。
初コースのオートポリスだからなのかと思いましたが、実際はトラブルだったのです。

予選後に右フロントのダンパーに破損が見つかりました。
完全にダンパーがダメになってしまっていたのです。

これにより、急遽翌日の決勝に向けてフロントダンパーの交換という事態に・・・。

しかも現在付いているオーリンズのダンパーのスペアが無い為、フロントに RS-R でリアに今まで通りのオーリンズという組み合わせとなってしまいました。

予選結果：9 位 4'17.406 (A・B 合算タイム)

A : 2'08.195 B:2'09.211



決勝（7月15日）

◆Weather：晴れ ◆Course：ドライ

今回の決勝前には15分のウォームアップ走行がありました。
今回急遽ダンパー交換をした我々にとっては、本当に有難い時間です。
いつもならドライバー交代の練習も兼ねて全員乗りますが、今回はマシンの確認とセットアップがあるので、自分が全て走りました。
決勝のブレーキパッドの焼き入れをしながら足回りを確認し、一度減衰調整をして15分の走行を終えました。
このとき、クラス4位と予想以上にタイムも出て乗りづらくもなかったことが、決勝に向けて朗報でした。

そして更に気温も路面温度も上がってきて、スタートを迎えます。
今回、昨年の最終戦以来のスタートドライバーを担当です。
作戦としては、森山選手が体調不良で走らないということになり、自分がスタートと3スティント目を担当することに。

スタートはタイミングもバッチリ決まったのですが、一つ前のポジションで隣のグリッドの29号車が若干出遅れたため、自分の加速が良すぎてコントロールライン手前で抜いてしまいそうになり、結局アクセルを若干戻したのでポジションを1コーナーまでに上げることは出来ませんでした。
そして2コーナー、3コーナーで再度29号車のインに入れそうだったので、まずはその前にいるストレートの速いS2000とインテグラの前になるべく早く出たかったので、身内で争ってロスをしてしまったのであえて仕掛けませんでした。

早い段階でS2000を抜き、更には27号車も抜いてインテグラの背後に。
しかし、ストレートが速いので、コーナー立ち上がりまでに追い付き、ブレーキングまでに離されるというストレスの溜まる展開となります。
しばらく引っかかってしまい、その間に前と溝を開けられてしまいました。
しかし、インテグラの前に出てから前との差はずっと開きも詰まりもしない状態でした。

今回一発の速さは分が悪いもののレースペースは悪くありませんでした。

最初のスティントは1時間半行く予定でしたが、1時間10分くらいで急にガス欠症状が発生し、緊急ピットインします。
前回の富士のレースの際でも起こっていた燃料系の症状で、解決したと思っていたのですが、解決出来ていなかったのです。
仕方なく、ここで植田選手と交代し、植田選手がちょっと早いスケジュールで

すがコースへ。

この植田選手のところで問題発生です。

この猛暑の中、クールスーツが調子悪いとの無線が・・・。

そしてまたもガス欠症状が発生し、1時間程でピットへ戻ってきました。

ここからまた自分が乗り込みます。

New タイヤで出たのでここでベストタイムを記録しながら周回を重ねていきます。

30分を過ぎた辺りでクールスーツを入れてみると、ホースの中の水が全く流れていないので、ここで完全に壊れたことを理解しました。

行けるならこのスティントはまた1時間半くらい行く予定だったのですが、案の定1時間いかないくらいでガス欠症状が・・・。

チームからの指示もあり、予備タンクのスイッチを入れて走りましたが、数周後には最後の上りのセクションでガス欠症状が出たのでピットへ。

最後はスローダウンして何とかピットへ戻った感じなので、この症状が1コーナーで出ていたら戻って来ることが出来なかったかもしれません・・・。

当初の予定だと、ここで交代した DAISUKE 選手でチェッカーのはずだったのですが燃料が1時間程で尽きてしまうので、我々はライバル勢よりも一回多いピットを余儀なくされます。

DAISUKE 選手も植田選手同様に安定した好ペースで周回し、クラス5位で最後の交代へ。

残り時間が45分程で、自分もこの日三回目のドライブです。

クラス5位で受け取りましたが終盤に一台リタイアした為、最終的にはクラス4位の今季ベストリザルトでレースを終えました。

最後も残り2周くらいガス欠症状が出ていたので、最後燃費走行にも切り替えていました。

決勝結果：4位（自己ベストタイム：2'09.455）



反省

今回は予選後にダンパーが壊れて急遽フロントだけ違う物を付け、更には燃料系トラブルがあり、クールスーツも壊れてしまい、内容だけ見ると悪かったと言えますが、それでも今季のベストリザルトを残せたことは大きかったと思います。

また、自分もレースの135周のうち81周という半分以上を担当したのですが、暑さで辛かったもののしっかり走りきれたことは自信にもなります。

決勝のコンスタントラップは悪くありませんでしたが、予選も決勝も一発のタイムが弱いので、次戦に向けて改善しなければなりません。

特に、マシンのセッティングを更に良いものにしていくことが最大の課題です。

今回発生したトラブルの原因をチームに今一度しっかり対処して頂き、次戦こそ表彰台に行けるように頑張ります。



最後に

今回のレースもたくさんのご支援ご声援、有難うございました。
そして今回は九州の豪雨被害も心配された中、たくさんのファンの方々にレースを楽しんで頂けたことを嬉しく思います。

猛暑で過酷なレースを完走し、表彰台に届かなかったのは悔しいものの、今年のベストリザルトを残せたことは本当に良かったです。
また、チームも自分を信じて半分以上を走らせてくれたことは嬉しくも思いますし、更に期待に応えたいという気持ちになります。

まだまだ課題もありますが、逆に言えば伸びしろと可能性があるので、後半戦で更なる飛躍が出来るようにチーム一丸となって取り組んで参ります。
次戦は9月22、23日にツインリンクもてぎとなります。
全力で頑張りますので、どうぞ今後とも御支援御声援の程、宜しくお願い致します。

2018年7月25日

東 徹次郎

